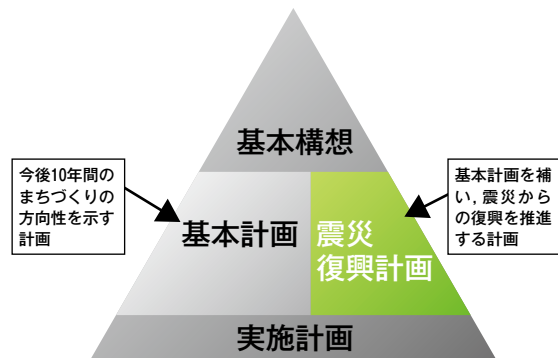


仙台市震災復興計画を知ろう

「仙台市震災復興計画（平成23年11月30日策定）」は、仙台市が東日本大震災からの一日も早い復興を目指して、市民と共に取り組むべき施策を定めたものである。この震災復興計画を読んで、まちづくりの関わり方を考えてみよう。

1 計画の位置付け

21世紀半ばを展望した「仙台市基本構想」の実現に向けて、「仙台市基本計画」が定められた。この基本構想には市や地域の課題解決や魅力創出に取り組む市民の力の重要性が掲げられた。この力は、震災後の復興に当たっても、重要な力となっている。

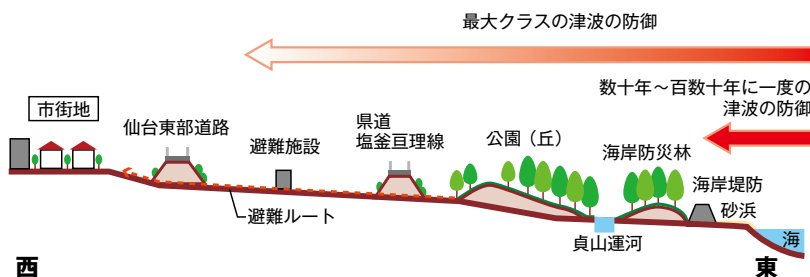


基本計画・震災復興計画のアクションプログラム

また、今回の震災を乗り越え、早期の復興と将来のまちづくりのために、「基本計画」を補うものとして、「仙台市震災復興計画」が定められた。この計画では、「新次元の防災・環境都市」を基本理念として、市民の力によって復興を進めようとしている。そのシンボリックなものとして「100万人の復興プロジェクト」を定めた。その中から三つのプロジェクトを見てみよう。

2 「津波から命を守る」津波防災・住まい再建プロジェクト

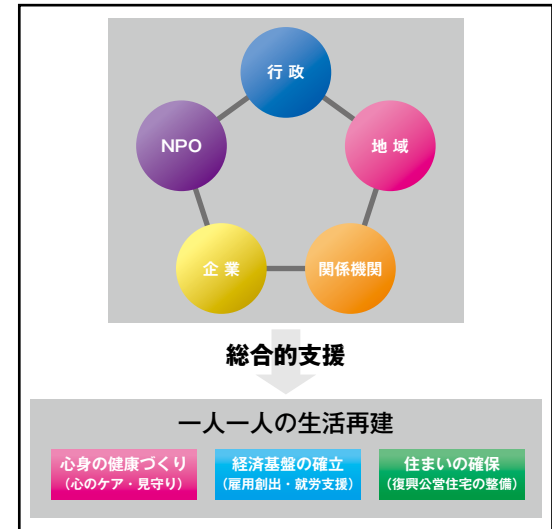
津波により甚大な被害を受けた東部地域の再生に向けて、様々な減災対策を講じる。住まいは西側地域に移転し、安全を確保する。下の津波対策施設イメージ（断面図）のように、堤防や防災林、道路のかさ上げ、避難施設の整備等の対策を複合的に講じる。



3 「一人一人の暮らしを支える」生活復興プロジェクト

被災した方一人一人の暮らしの復興に向けて、きめ細やかな支援を総合的に行う。具体的には、復興公営住宅の整備等によって住まいを確保するとともに、心身の健康づくりを支援する。また、雇用を創り出すとともに、雇用する側と働きたい側の希望と実態を調整することで、経済的に自立できるよう支援する。

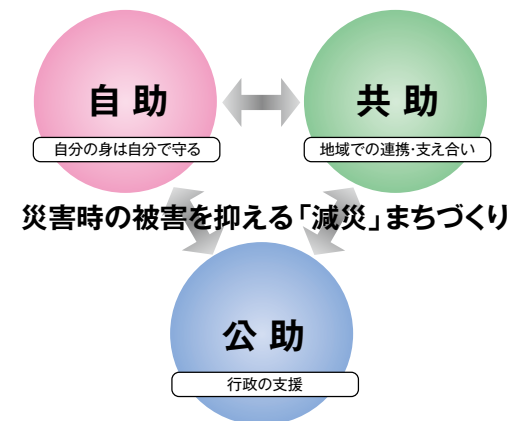
さらに、生活支援情報を取りまとめた「復興定期便」を送付するなどして、被災した方への情報提供を進める。



4 「教訓を未来に生かす」防災・仙台モデル構築プロジェクト

未曾有の災害を経験した都市として、防災に関する「仙台モデル」を構築し、国内外への発信を目指す。例えば、避難所の運営や機能を見直し、自助・共助の在り方を知らせ、「地域防災リーダー」を育成する。多様な人々を主役に、地域を越えた絆作りを推進する。

さらに、震災に関する研究成果や復旧・復興に関する「知」を集積し、発信する。



? 考えよう

- 他の「100万人の復興プロジェクト」についても調べてみよう。
- 仙台市民の一人として震災復興計画にどのように関わられるか、考えてみよう。